

## 伊藤 忠男

http://www.angkorclimbers.net

# モイモイのモイ

(一歩一歩のたった一歩)



## 選手登録制度 (2)

ニッチの隣に住むモン(仮名)もニッチと同年齢の女子で、ニッチ同様、クライマーとして一般的な資質を感じさせる子だ。しかしこちらもまた父親が頑なに免責同意を拒んでいた。しかし、モン自身が楽天的な子で、何かという適切な理由を付けては、ペロっと舌を出してクライミングイベントに参加し

てしまうのだ。仮の保護者となつているスムロンは、何かあれば大きな責任を負うことにならぬのだが、彼は、他に関与しているスポーツでも同様のことになつていくようで、一向に気にならぬようだった。そんなモンの父親も、ニッチの父親が半分妥協したことを知って、同様に人工壁のみの免責に同意した。

当時最年少だった3人の男子

## 目指せ、 アンコールクライマー誕生!!



アンコール・カップ、女子決勝ルートで奮闘するモン(仮名)。



ACN-YOUTH の家庭面談は続く。子供たちの家は概ねシェムリアップ市郊外で、周囲は畑や田んぼだ。写真はカンボジア典型の高床家屋。

中学生がいた。彼らの場合、親の同意はすんなり得ることが出来るのだが、1ヶ月も経たないある日曜日を境に3人揃って練習に来なくなつた。家を訪ねると、ひとは母親が家出したのをきっかけにギャンブルに走り、父親が罰則に通学以外の行為を禁止したのだった。さらにひとは、父親がまだ13歳の彼を出稼ぎに出した、と平然と言つてのけ、僕を驚かせた。そしてもうひとり、は寺に出家した。この3人は数ヶ月して戻ってきたが。

雨季に入った7月前半に内輪の模擬コンペをやったとき、選手登録制度の実現を根幹から揺るがす出来事が起きた。アンコール・カップでクラス別で入賞したある男子が、今回申告した誕生日が半年前より1歳若くなつていたので。最初は単純な間違いと思つたのだが、違った。これはユースカテゴリーの導入如何に関わる重要な意味を含んでいた。彼は1年前から学校をさぼり続け、その夏から新しい中学校へ編入した。両親が新たな「ファミリーID」(住民票に

相当?)を申請、誕生日を変えてしまつたらしいのだ。学年を遡つて、まっとうな学歴を作ろうと目論んだ親心らしい。仮に半年前のアンコール・カップでその年齢だったら、彼は入賞できなかった。カンボジアには無論戸籍に関わる法もあり施行も進んでいるが、実態は混乱している。ファミリーIDが当面は選手登録制度のキーといえるが、パスポートの申請時にこともあろうに役所によって、柔軟?に変えられていく可能性さえある。スムロンとクラビへ行ったとき、彼のパスポートを見て、彼が言っていた誕生日と違う日が DATE\_OF\_BIRTH に書かれていて戸惑つた覚えがある。

こんな風な紆余曲折を経て、競技をやる子供たちの基礎資料は整理されていくのだが、第2回のアンコール・カップまでには、それなりの選手登録制度が機能するだろうか。もやもやとした懐疑が僕の胸から消えることはなかった。

(続く)